

かわさき区の宝物シート

宝物No.	ぎんえいかい(かわさきえいがかい) 銀映会(川崎映画街)
2-5	

エリア	中央地区	シーズン	—
	川崎駅前南	日時	—

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input checked="" type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



昭和31年の川崎映画街の風景(左上)
VIA CINECITTA'(上右)



解散直前(平成13年)の銀映会アーケード街(下左)と平成22年のチネチッタ通り(上右)
写真提供：小串嘉男氏、チネチッタ通り商店街振興組合

所在地	現在のチネチッタ通り周辺 (商店街振興組合：川崎区小川町7-4)
問い合わせ	チネチッタ通り商店街振興組合
TEL	044-211-6666
FAX	044-201-2566
E-mail	
URL	http://lacittadella.co.jp/vcc/
交通	JR川崎駅より徒歩5分 京急川崎駅より徒歩7分



基礎情報

■昭和12年(1937)春、小川町に「川崎映画街」が誕生した。東京・日暮里を拠点として映画館事業を展開していた美須興行(後の(株)カワサキ・ミス、現在の(株)チッタ エンタテインメント)が川崎に進出、市内で初となる6館からなる映画館街がつけられた。大空襲により全館が灰に帰すも、昭和20年(1945)7月には復興第1号となる「川崎銀座座」を開業した。昭和25年(1950)に設立された「銀映会」とともに街づくりを進め、川崎の戦後復興に大きく貢献する。昭和37年(1962)には大小16の映画館が揃い、続いて昭和40年(1965)までにはボウリング場・スケート場・プール・ゴルフ練習場を擁するスポーツセンターもオープンし、映画とスポーツを軸とした一大娯楽文化エリアが完成、以降昭和の終わりまでの長きにわたり多くの人々のにぎわいで活況を呈した。

■昭和60年(1985)、一帯はカワサキ・ミスによる再開発事業が着手され、映画街の一部は取り壊された。昭和62年(1987)のシネマコンプレックスの先駆けとなる「チネチッタ」、翌年の大型ライブホール「クラブチッタ」のオープンを経て、平成14年(2002)11月、複合商業施設「ラ チッタデッラ」が完成。現代的な新感覚の文化情報発信地として生まれ変わり、大きな集客力を誇っている。かつての銀映会も現在は「チネチッタ通り商店街振興組合」として、地域に根ざした活動を続けている。

由来・エピソード

■美須興行の創業者である美須嶺(こう)氏が東京・日暮里で映画館の経営に乗り出したのは大正11年(1922)のこと。日暮里駅前に第一金美館を開業するも、翌年の関東大震災によって一から再出発することになる。14年後、人口約17万人の川崎で映画街づくりをスタートする時には、延べ20館におよぶ金美館チェーンを展開していた。川崎初となった6館の映画館街は、8年足らずして大空襲により焼失。唯一残った石蔵を拠点として、美須氏はスタッフとともに焼け跡を整理し終戦直前の昭和20年(1945)7月、復興第1号の「川崎銀座座」開館にこぎつけた。終戦後、一面の焼野原の中、川崎映画街を中心に川崎駅前の復興の植音はひろがっていった。当時銀柳街を流れていた古川の埋め立てと、川崎映画街の完成によって人の流れが変わったことで、銀柳街も大きく発展していった。美須氏が寄贈し植樹された柳の木にちなみ、銀柳街と命名されたという。

■川崎映画街は、70mmフィルム映写機の豪華なロードショー館の川崎グランド劇場、川崎映画劇場、川崎日劇、川崎名画座を筆頭に、邦画封切では川崎東宝、川崎日活、川崎大映、川崎松竹、川崎東映の5系統など多彩な陣容を誇った。小川町以外にも堀之内東映や川崎中央劇場、川崎追分劇場と、区内各所にも劇場をオープンさせた。また、大田区蒲田にも8つの映画館を擁する蒲田東口映画街も手がけ、川崎・蒲田にまたがる健康的で明るい「娯楽のデパート」づくりが目指された。美須氏の「事業則奉仕」の理念のもと、京浜両方面における駅前開発推進に大きな役割を果たし、また川崎小学校にプールを寄贈するなど地域に根差した活動にも尽力したといわれる。

■潤いのある人間味あふれた都市環境づくりを目指した緑のあるモール化事業がスタートし、昭和56年(1981)には、四季折々多彩な花樹が植栽され往年の名画のモニュメントなどで彩られた「シネマストリート」が完成し脚光を浴びた。

■昭和57年(1982)、銀映会から分かれてミスサンモール通り会が設立され、やがてカワサキ・ミスとともに再開発事業を展開していく。平成3年(1991)、新たにチネチッタ通り商店街振興組合が発足し現在に至っている。銀映会の一部が新組合に移行した後、新川通り沿いの商店街によって存続していたが平成13年(2001)をもって解散した。

補足・その他

■平成14年(2002)には、国の中心市街地活性化法をいち早く適用し、チネチッタ通り商店街振興組合が関東エリアでは2番目となるTMO(まちづくり機関)認定事業者となり、「ラ チッタデッラ」と同一コンセプトに基づいたカラー舗装、街路灯、ポラード・サイン施設等の一体整備やアーケード撤去が行われ、翌年3月に完成。現在のチネチッタ通り全体の一体感と安全で快適な商業空間、イメージ形成はこうして創出された。平成27年(2015年)10月には、安心・安全の観点から舗装改修を完成させた。

■毎年10月最終週末には、「カワサキハロウィンパレード」が開催される。

関連シート

- (1-23) 銀柳街・銀座街
- (2-3) ラ チッタデッラ
- (2-4) カワサキ ハロウィン